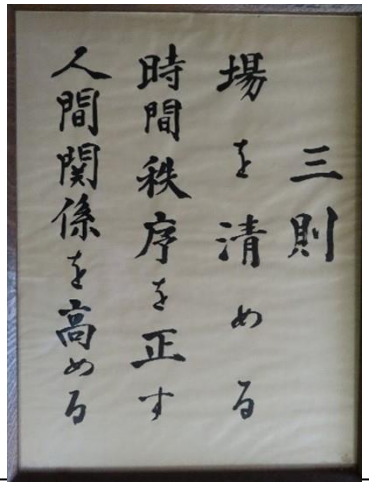
原井の三則



百五十年に亘る「原井の歩み」を振り返る時 多くのみなさんが 思い浮かべることばではないでしょうか。

このことばは 昭和三十二年度から昭和四十年度まで 九年間校長を務められた 林 光博 校長先生が 指導を仰がれた 森 信三先生のことばです。

職員室には おそらく（由来をぜひ知りたいのですが）当時 掲げられた「三則」が 半世紀以上経った今でも掲げられています。また 校舎内には卒業制作として作られた 木彫りの「三則」も掲げられています。

そして 林 校長先生 最後の年に原井小に着任され その教えを 受け継いだ 川崎 吉郎 先生が 三十年後 雲城小校長として ご退職される年に 雲城小に 着任したのが　私です。

私は 川崎先生のおことば ひとつひとつが 今でも 心に残っています。

そして 何という ご縁でしょうか。三十年近い月日を経て 私は 雲城小校長から 原井小校長へ。

私はこの「原井の三則」に込められた思いを つなげなければ つなげたい そう 心に誓っています。

（川崎先生の文章を紹介します。）

三つのことば

雲城小　校長 川崎吉郎（H７）

私の大好きな そして いつもこのことばによって励まされ 生きる力を与えられた「三つのことば」を 紹介しましょう。

「人生二度なし」

このことばは 「腰骨を立てる」ということを提唱された 森 信三 先生のことばです。

「人生二度なし」

こんなわかりきった 誰もが知っていることを 森 信三先生は 三十五歳ころ はじめて わかったとおっしゃっています。 普通の人の わかり方とは違うこと もちろんです。

この「人生二度なし」という一念が明けても暮れても 常に自分の心の底から離れないようになった。 そしてこの人生というものは 二度と 繰り返すことのできないもの であるから自分がもって 生まれた能力を ぎりぎりのところまで発揮した上で 棺桶へ入る というくらいの意気込みが なくてはならないということを自覚されたのです。それが 三十五歳ころだったというわけです。

「念ずれば花ひらく」

念ずれば　花ひらく
苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになった
そうしてそのたびに
わたしの花がふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

この詩は 坂村真民さんの詩です。

この「念」にこもる力が 大切だと思います。「念」は「祈り」だと思います。親の 子への祈り 子の 親への祈り それが「念」なのでしょう。

「念」の内容は心に秘めておくことが大切でしょう。 口に出してしまうと念の力が 抜けてしまうような 気がします。

バラ二本
一本は花　大
一本は花　小
大　大を誇らず
小　小を恥じず
力のかぎり
咲けるが美し

これは 芦田恵之助先生のことばです。世の中 大人と子ども 男と女 老人と若者 それぞれに 良いところが あり優劣はないのです。それぞれが自分の長所を生かし 力いっぱい 生きていくそこに 人生の 生きがい が あるのでしょう。

この 三人の 先生について 教えてくださったのは 私が生涯の師と仰ぐ林 光博先生です。林 先生は 雲城のご出身であり 雲城小学校の校長先生でもありました。

川崎校長先生は この春（二月に）ご浄土へ 旅立たれました。